

2日 適性検査型 II その1

受験番号	氏名

小計	※
----	---

※ のらんには何も記入しないこと。

1

問題1	A <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">6</span>	B <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">2</span>	C <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">7</span>	D <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">5</span>	E <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">4</span>	F <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">3</span>	G <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">1</span>
-----	---	---	---	---	---	---	---

※
---

問題2	記号	改善点	
	<b>B</b>	警告ブロックが、壁に近づきすぎていて、障がいのある方が壁にぶつかってしまうため、警告ブロックを壁から30センチほど離して設置をした方がよい。	
	記号	改善点	
	<b>C</b>	扉まで誘導ブロックがあり、このままでは障がいのある方が扉にぶつかってしまうため、扉の手前から30センチほどはなして、警告ブロックを設置した方がよい。	※

問題3	工夫1	駐車場の出入り口から、一番近い場所に障がい者用の駐車スペースがある	
	工夫2	お店の出入り口に一番近い場所に、障がい者用の駐車スペースがある。	
	工夫3	障がい者用の駐車スペースの横のスペースが、車いす等の利用者が乗り降りしやすいように広くとってある。	
	工夫4	障がい者用の駐車スペースが、障がいのある運転手がとめやすいように他の駐車スペースより広がっている。	

※
---

2日 適性検査型 II その2

受験番号	氏名

小計	※
----	---

※ のらんには何も記入しないこと。

2

問題1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・透明の箱を通して奥の箱が見えている可能性があるから</li> <li>・1階の窓からでは奥の箱の様子がよくわからないから</li> <li>・1方向からの観察だけでは、立体の様子はわからないから</li> </ul>
-----	--

※	
---	--

問題2	ア)	透明	イ)	黄色
-----	----	----	----	----

※	
---	--

問題3	ウ)	青	エ)	赤
	オ)	黄色	カ)	青
	理由			
<p>【問題2】から(ア)が透明の箱とわかっているので、(ウ)では奥にある青の箱が見えている。</p> <p>また、(エ)の位置は【問題2】の(イ)の箱が見えているので、黄色である。</p> <p>次に、2階からみると2つの赤の箱が見えるので、(エ)は赤である。</p> <p>残るのは青と透明の2つの箱なので、(カ)は青く見えている。</p> <p>(ただし、(カ)の奥に赤の箱があり、その上に透明の箱が乗っている場合もあるが、このときも(カ)は青く見えている。)</p>				

※	
---	--

2日 適性検査型 II その3

受験番号	氏名

小計	※
----	---

※ のらんには何も記入しないこと。

3

問題1

(ア) (貨車1を例に計算)

$155 + 69 = 224 \dots\dots ① \quad 224 \div 16 = 14 \dots\dots ②$

① 貨車から線路にかかる重さは、荷物の重さと貨車そのものの重さがあるので、「最大荷重」と「自重」を足します。

② ①の答えを「車軸」の数で割ると一つの車軸にかかる重さわかります。

重さ = 14トン

(イ)

140トン
-------

※
---

問題2

	最	大	荷	重	と	自	重	か	ら	計	算	す	
	る	と	2	3	軸	と	な	る	が	、	図	2	の
	よ	う	な	貨	車	で	は	、	車	軸	の	数	が
	奇	数	で	あ	る	と	、	荷	物	の	前	後	に
	同	じ	車	軸	数	だ	け	配	置	で	き	な	く
	な	っ	て	し	ま	う	。	そ	う	す	る	と	荷
	物	の	前	後	で	重	さ	を	均	等	に	分	散
	さ	せ	る	こ	と	が	で	き	な	く	な	っ	て
	し	ま	う	た	め	、	1	軸	増	や	し	て	偶
	数	に	し	て	い	る	と	考	え	ら	れ	る	。

※
---

問題3

行きは、停車時間以外で4時間30分かかっていて、分に直すと270分。帰りは、速さが行きの1.5倍なので、行きの時間を1.5で割れば、帰りの停車時間以外となる。

$270 \div 1.5 = 180 \dots\dots ①$

帰りは停車時間も含めて6時間=360分かかっているので、これから①を引いた残りが、停車時間の合計になる。

$360 - 180 = 180 \dots\dots ②$

1回の停車時間は30分なので、②を30で割ると停車回数となる。

$180 \div 30 = 6$

停車回数 = 6回

※
---